

魚井

題字 筑紫哲也氏

豊かに生きるヒントがここに。

九州文化塾

K Y U S H U B U N K A J U K U

第23期
第9回
vol. 232
会報

発行：九州文化塾事務局 〒810-0001 福岡市中央区天神1-16-1 毎日福岡会館6F
Tel.092-711-7536 Fax.092-752-1722 ✉ jimukyoku@kyushubunkajuku.jp

第9回 12月19日(木)



【テーマ】
「ゆつくりと一歩」

【講師】 俳優・歌手

さとみ こうたろう
里見 浩太郎氏

昭和11年11月28日生まれ。静岡県富士宮市出身。昭和31年「東映第三期ニューフェイス」として芸能界入り。翌年、『天狗街道』にてデビューし、『金獅子紋ゆくところ』にて初主演。数多くの東映時代劇に出演し、その後はテレビ時代劇に進出。

昭和46年から15年に渡って演じたTBS系『水戸黄門』の佐々木助三郎役、昭和58年から演じた日本テレビ系『長七郎江戸日記』の松平長七郎役は代表作となる。昭和60年から始まった日本テレビ年末時代劇スペシャルでは『忠臣蔵』から『風林火山』まで主演を務め、時代劇トップスターとしての地位を確立する。平成14年からは

TBS系『水戸黄門』の五代目・水戸光圀役を9年に渡って演じ、今もなお第一線で活躍を続けるまさに「ミスター時代劇」である。

また、昭和52年の御園座八月特別公演『大江戸捜査網』より座長公演を開始し、毎年、東京、大阪、名古屋にて「里見浩太郎特別公演」を上演。その一方で、平成7年に発売した『花冷え』のヒットにより歌手活動も積極的に行っている。

次回のご案内

第23期
第10回

2020年
1月17日
(金)



【講師】

あいか
愛華 みれ氏 元宝塚歌劇団花組トップスター

【テーマ】

「がんを乗り越えて」

この道62年、”巧みの世界”に

きつかけは二人の”神”との出会い

ストレスためず、好きに生きる！

講師 木村 大作氏

テーマ 「誰かがいかなば道はできない」



第23期九州文化塾(毎日新聞社、RKB毎日放送主催、サンデー新聞協賛)の第8回講座が11月29日、福岡市中央区天神のアクロス福岡シンフォニーホールであり、映画監督・撮影カメラマンの木村大作さん(80)が「誰かがいかなば道はできない」の演題で、約1200人を前に講演した。撮影の裏話などをざつとばらんな語り口で紹介し、会場は笑いに包まれた。

木村さんは1958年、東宝撮影部にカメラ助手として

入り、故黒澤明監督らの作品にも携わった。監督を務めた故葉室麟さん原作の映画「散り椿」が昨年公開されている。散り椿のメイキング映像を流し、撮影秘話をユーモアを交えて話した。カメラマンとして9本の映画で一緒に仕事をした故高倉健さんのエピソードも披露。「最後まで主役として役者を全うした唯一の人だと思う」と話し、撮影中は座らずにスタッフの動きをよく見ていたことなどを振り返り、しのんだ。

客席からの「次回作は？」との質問に「再来年に1本撮りたいと思っている。自分の最後を語るには良い作品になる」と笑顔で締めくくった。

2019年11月30日付
毎日新聞朝刊

ひとくちインタビュー

高卒で映画界に入って62年。もう「巧みの世界」だよ。監督兼カメラマンというのは世界でも僕だけ。まだ現役で自分の好きにやれているって、ありがたいね。高2の時に父が亡くなり、下に弟が3人いたので、就職して母の手助けをしようと思って11社受けたけど全部落ちた。たまたま東宝株式会社に採用されたのが人生の分かれ目。当初はボイラーマン枠だったのに、映画の最盛期で現場が人手不足だからと撮影助手に回され、黒澤明組に配属されたのが人生が変わったきっかけです。

最初は『隠し砦の三悪人』だったけど、すごかった。天才で完全主義者の黒澤監督の背中を見て覚え、染みついたものが、今も生きています。二番目のきっかけは『八甲田山』のカメラマンとしての高倉健さんとの出会い。オーラがすごくて、健さんの背中に人生が全部でてるんですよ。『映画の神』を見てきたことが自分の人生に大きく役立っているのと、60歳を過ぎてそのことばかり考えています。企画や脚本を考えたり、一人でロケハンしたり、現場に入る前の準備期間が一番楽しい時間で、実は今がその盛り。撮りたい映画があるんです。

木村 大作
2019.11.29

講演についての感想

アンケートの一部より
抜粋 敬称略

◆とても面白く、楽しかったです。高倉健さんの話も面白くて、風景として頭の中に出てきました。(山口県下関市 金田 博美)

にわたって聞いて良かったです。(長崎県長崎市 岸本 美由紀)

◆「散り椿」、観ました。「映画でしか撮れない美しいものを撮りたい」という黒澤監督の教えを胸に、情熱を感じとれるくらい、それはもう美しかったです。メイキング映像が15分流れましたが、みんなワンチームで命がけで撮っているんだなということがよく分かりました。「早く撮って、まあまあの作品」か「一生残る作品」か、どうせ作るなら自分が納得いくもの、それだけ情熱をかけられるものしか受けない高倉健さんの生き方も素晴らしいなと感じました。

◆働かなければならなかったので就職したところが、東宝撮影部でカメラ助手。何も技術は持たなかったのにカメラマンになり、遂に監督業も。元々それなりの才能があつて、努力で磨き上げられたのだろうか。だから、監督をしていてもカメラを覗かなければ済まない、という事なのだろう。話される内容は多岐にわたり、監督・俳優・映画界というものの一端に触れたように思う。斜陽と言われて久しい中、多くの人に見せるために、どうしたら良いかという努力を知る事も出来た。

人は、これだというモノでも人でも出会えれば、自分が幸せと思えるものがあれば、生きていけるというのは真実なんじゃないかと自分も思います。これからも、日本人の心に残るような多くの作品を情熱を持って作っていただきたいなと感じました。お体を大切にされて下さい。

ジャズ、歌声が美しかったです。バラードや勇気が出て来るような曲、多岐

昭和30年代のように、公開すれば映画館が満員と言う時代はもう戻ってこないだろうし、映画館で三本立てを一日かけて時間を過ごすという事もなくなってしまうって、その頃の娯楽がないというのは寂しいものがある。木村氏のほか様々な人たちのお陰で、今まで日本映画が生き残っているのだから、洋画に負けたくない、さらなる活躍を期待したい。(福岡県直方市 久場 清広)

◆今回の公演を聴くまで、木村大作さんを知りませんでした。感銘を受けたのは、タバコは止めない、健康診断は受けない事を貫いてこられた事でした。服装も個性があつて、高倉健との交話など、とても面白かったです。

(福岡市中央区 高須 燾)

◆私は映画好きです。「剣岳 点の記」春を背負つて、「冒頭で映されたメイキングの「散り椿」も映画館で観ました。咲き誇る椿の前での腰を落とした殺陣のシーンを、息を呑んで観たのを覚えています。格の違う映画でした。そういう映画を作られ、たくさんの俳優の方々からリスペクトされている木村大作氏とはどういう方なのだろうか、職人気質の寡黙な方では……などと想像しておりましたが、予想は見事に外れました。壇上の木村氏は快活でユーモアのある、とてもダンディーな方で、80歳とは思えないパワーあふれるお話に圧倒されました。そして、妥協せず信念を持つて映画撮影に臨まれていらつしやることを知りました。ますます新作が楽しみにになりました。ぜひ、心に残るいい映画を作つて下さい。お待ちしております。颯爽としたお姿と快活なお声にパワーを頂きました。ありがとうございます。

ございました。

(福岡県糟屋郡 永友 裕子)

◆とにかく面白かつた、と思います。撮影の現場風景を上映。声が大きい。元氣いっぱい。ワンチームで準備し、撮影する厳しい監督だと思いました。ところが、講演になると、話は本筋を離れてあつちに跳び、こつちに跳び、皆を笑いの渦に巻き込みながら、いつの間にか又、本筋に戻り、氏の生き方、物の考え方、そして高倉健さんの人間像がしっかりと伝わってくる講演で、すっかりファンになりました。又、九州文化塾に登場頂き、今日とは違うお話を聞かせて下さい。次回作品を楽しみにしています。

(福岡市西区 濱田 吉信)

◆木村大作さんは講演中は立ちっぱなし、今年80歳にも関わらずお元気でユーモアあふれるお話が非常に楽しかつたです。高倉健さん主演「八甲田山」のエピソードを聴きながら、雪の行軍シーンを思い出しました。又、今でも強烈な印象が残つている「どですかでん」では、カメラマンのチーフ助手として関わつていたというのも興味深いものがあります。黒澤明監督に、ピント送りの名人と言われ、当時は手動でピント合わせをする時代の事。プロでも

ムービーカメラのピント合わせの難しさは相当なものだつたと察します。再来年に向けて、新作を撮られるご予定もありませんか。非常に楽しみにしています。

(福岡県大野城市 松永 楠生)

◆超大作と言われる日本映画をほとんど見ましたが、そのカメラ(撮影)は木村氏です。「八甲田山」の4Kデジタルリマスター版は「午前10時の映画祭」で久々に対面。健さんも北大路さんも若かつた。撮影秘話も当時のパンフレットで知つていましたが、ご本人の話を聴くと改めて納得。「剣岳 点の記」も「散り椿」も「木村大作」の名にひかれて観ました。80歳でお元気で洒落。是非85歳までと言わず、もつと長く多くの作品を撮つて下さい。

(鹿児島県鹿児島市 本山 るみ子)

◆「木村大作」という名前を存じ上げず、ただ定例の文化塾の講師と思ひ出かけました。紹介で初めて知りました。最近では耳が遠くなつて映画を楽しめなくなり、観に行く事をやめています。木村さんの作品はその少ない機会になぜか全部観ていました。1939年生まれて、私と同じ。同級生のなれの果てを見ているので、何の期待感もなく、今日は居眠りと決めていまし

た。しかし、次から次のお話と、人柄がしのばれてファンになりました。私たち同世代の特徴……マイペース、大きな声、一番はこれと言つたら誰か傷つくという配慮のない行動や言葉、後で気が付き「まあ、いいか。本当の事だもの」と開き直る凶太さ。あなたの病氣に対する姿勢、私と同じです。いつでもお元氣にお過ごし下さい。ちなみに私は95歳まで生きるつもりです。どんなスガタになるか不明ですが、楽しみにしています。

(北州市八幡西区 渡辺 不二子)



80歳とは思えない張りのある大きな声。ダンディーで、興が乗つてくると映画の専門用語が次々に出てくる。黒澤監督や健さんのリアルな話を聴いていると、感動してつい涙ぐんでしまった。

40mの小さなマンションに一人暮らしで、食事は40年間、オール外食。健康には全く気を遣わず、タバコも吸い放題で、好きなように生きてきた。病は気から、とストレスはためないように。問題があれば一日で解決し、次の日は新たな気持ちで。離婚話も一日で片づけたとか。参りました。

(鱗)編集長・手島 博

事務局より

● 前回の台風19号被害救援金のチャリティ募金には1万3415円の義援金をお寄せいただきました。ありがとうございました。

自衛隊19号被害救援金
1万3415円
福岡市で10月20日にあった第23期九州文化塾第8回講義場で寄せられた浄財
ありがとうございます

● 第23期第8回のアンケートによるプレゼントの当選者は次の5名の方々です。木村大作さんのサイン入り色紙をロビーの事務局でお受け取りください。(敬称略)

- ・金田朋子・濱田吉信
- ・日野功・広重智子
- ・本山るみ子

● ミニコンサート、講演中の写真撮影、録音、録画、携帯電話やスマホの操作は周りのご迷惑になりますのでご遠慮下さい。

● 第24期のスケジュールと継続申込みについて
・現塾生の優先受付中です。郵便局より入塾申込書でのお手続きをお願いいたします。

・本日は会場内ロビーでも受け付けております。また次回開催時(1月17日)も会場での受付を予定しております。

・優先受付は1月19日までとさせていただきます。1月20日以降の申込みは一般募集と同様に申込み順となります。お早目にお申し込み下さい。

● 会報「鱗」は皆様のご投稿をもとに編集しています。講演やコンサートについての感想や意見をお寄せください。

● 場内には看護師が待機しております。ご気分が悪くなられた方はお近くのスタッフまで遠慮なくお知らせください。

【第24期 スケジュール】

第1回	2020年 4月5日(日)	坂東 玉三郎 氏 歌舞役者・映画監督・演出家
第2回	5月16日(土)	近藤 サト 氏 フリーアナウンサー・ナレーター
第3回	6月21日(日)	玉置 妙憂 氏 看護師・僧侶
第4回	7月18日(土)	加来 耕三 氏 歴史家・作家
第5回	8月5日(水)	荻原 博子 氏 経済ジャーナリスト
第6回	9月20日(日)	林家 たい平 氏 落語家
第7回	10月24日(土)	平野 レミ 氏 料理愛好家・シャンソン歌手
第8回	11月18日(水)	内田 樹 氏 神戸女学院大学名誉教授
第9回	12月16日(水)	小林 弘幸 氏 順天堂大学医学部教授
第10回	2021年 1月22日(金)	秋川 雅史 氏 テノール歌手
第11回	2月18日(木)	増田 明美 氏 大阪芸術大学教授・スポーツジャーナリスト
第12回	3月12日(金)	大野 真司 氏 がん研有明病院 副院長・乳癌センター長



9th Mini Concert

RKBアナウンサーによる朗読会

「サンタクロースっているんでしょうか?」(出版社:偕成社)

ニューヨークサン新聞社説 訳/中村妙子(なかむらたえこ) 絵/東逸子(あずまいつこ)

「そっといちどだけ」(出版社:ポプラ社)

作/なりゆきわかこ 絵/いりやま さとし

読み手/茅野 正昌・田中 みずき・本庄 麻里子

ごあいさつ

「心に想像と創造の種を蒔きたい…美しい日本語を後生に残し、本の中に込められたメッセージを届けたい…」RKBアナウンサーによる朗読会活動は、そんな思いから始まり、今年で19年目を迎えました。西南学院大学や大濠公園能楽堂で公演を行っています。

RKBラジオで放送している「おしゃべり本棚」は、2001年にスタート。放送音源を福岡市点字図書館に寄贈しています。また、福岡市立こども病院の院内学級に、毎年朗読で慰問活動をしています。さらに、小学生が朗読の技術を競うコンクール「お話アカデミー」は、今年が節目の10回目となり、新設された広島大会と合わせて500人を超える小学生が参加、去る12月14日に決勝大会を行いました。来年3月の「お話アカデミー朗読会」では、グランプリに輝いた歴代の小学生とRKBアナウンサーが共演します。観覧の応募要領は、決まり次第、RKBラジオのホームページに掲載致します。

♪ 前回のミニコンサート



写真は武本強志さん(右)
MAYUMIさん(中央)
吉岡かつみさん(左)

ジャズトリオの演奏

11/29(金)

第23期
第8回



茅野 正昌



田中 みずき



本庄 麻里子

RKBラジオ「おしゃべり本棚」
毎週土曜日午後5時20分から放送中

次回のミニコンサートは、「チェロ独奏」をお楽しみいただく予定です。



「誰かがいかなければ道はできない」なんてカッコいいテーマでしよう!! 確かにそうは解っているもなかなか実行するのは難しいことですよね。
今回の花のテーマは迷わず白! 木村大作監督の映画からも雪の白のイメージが感じられる作品が沢山あります。キラキラと光る雪景色を表すのに、白のストックや、キンギョ草、デンファールなどの花たちと、ブルーブッシュというシルバーの葉物を使ってみました。あとは、グリーンの大輪の菊で、寒色の花たちで寒い冬景色を表していました。枝の赤目やナギ、とニシキギでなお、寒さを感じていただけたのではないのでしょうか? その中で、唯一薄ピンクのカーネーションとオレンジのマムがホッとする暖かさを醸し出していました。映画の中でも心温まるシーンが数々見られます。私が想像していたカッコいい監督でイメージびつたりでした。



協力: フラワーショップ
アヴィーダ